

一枚ポートフォリオ

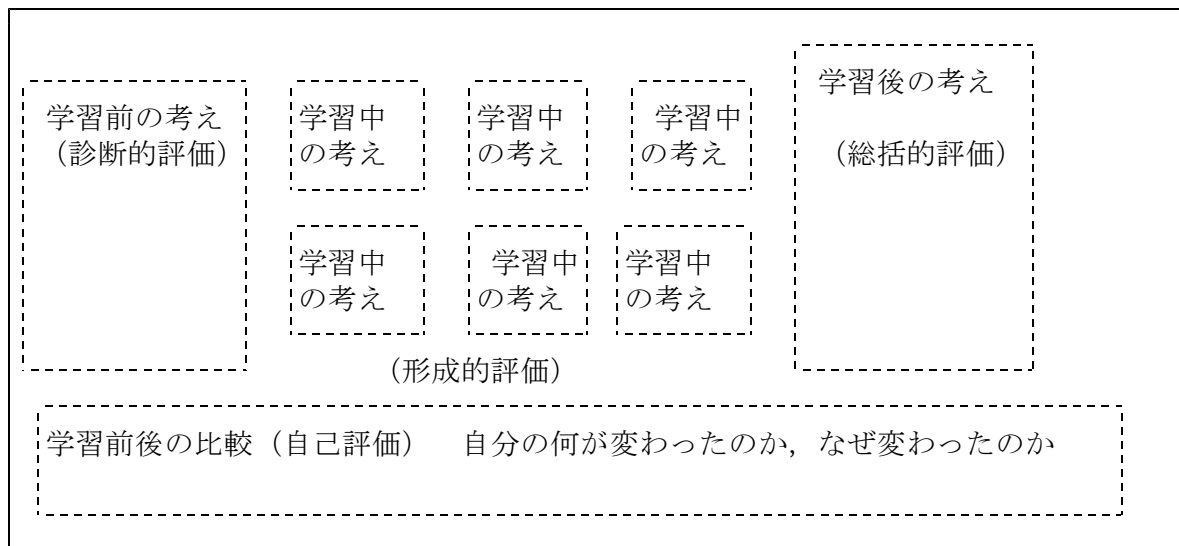
一枚ポートフォリオとは

一枚の紙面に、学習前・学習中・学習後の考えを児童が書き、自己評価や教師の評価と指導に生かせる「指導と評価の一体化を具体化」したシートである。

ポートフォリオ評価は、総合的な学習の時間などで児童が作成したノート、作文、絵などの作品、メモなどをすべて集めてファイルしたものであるが、一枚ポートフォリオは一枚の紙面に表した記録である。「総合的な時間の評価」が話題になった頃、さかんに紹介された。しかし、ポートフォリオ評価は、ファイルが膨大になり教師評価にも児童評価にも使えないのが現状ではないか。

一枚ポートフォリオは「一枚」であるからこそ使える

たとえば、一枚の紙面を次のような枠組みで作成する。



一枚ポートフォリオは次の1～8のように生かすことができる。

1 学習前の児童の実態を把握する。

児童に学習前の考えを書かせることで、**診断的な評価**ができ、授業展開の工夫をすることができる。

2 学習履歴を記録する。

児童が授業で学習したことで、大切なこと、わかったこと、疑問に思ったことなどを記録する。後でこの記録をみることで児童は学習を振り返ることができる。

また、この学習の記録を教師がみることで**形成的な評価**ができる。そして、足りないことを補ったり、誤りを修正したりできる。

3 一枚ポートフォリオから授業を評価する。

学習中の児童の記録をみると、子どもたちが授業によってどのような考えを構築したのか分かる。このことは児童の形成的な評価であると同時に、教師にとっては授業における発問の適否、使用した教材の効果などの授業評価である。

4 学習後の成果を把握する。

学習前と同じ問題に答えることで、**総括的な評価**ができる。そして、**補充的な指導**を行ったり、**授業の評価**をしたりできる。

5 自己評価ができる。

児童に学習前の考えと学習後の考えを比較させることで、つぎの1～3のような自己評価をさせることができる。

① 学習の意味を知り、学習意欲を育てる。

学習前後の考えを比較することで、自分の変化が実感でき、「学習するとできるようになる。学ぶことは大切なんだ。」と学習することの意味を感じる。

また、「学習すると自分は変わる。また学習しよう。」と学習の意欲を持つ。

② 学習前の考えを変えることができる。

児童は、「白紙」の状態ですべて学習に臨んでいるわけではない。何らかの既存の知識や経験をもとに学習に臨んでいる。学習前の知識の中には、誤ったものも多く、学習しても強固でなかなか変わらないものがある。また、授業で一時的に変わってもすぐに元に戻ってしまうこともある。そのような誤った知識を正しい知識に変えるためには、自分の学習前の考えと学習後の考えを比較し、「自分は学習前にはこんな思いこみをしていたんだ。でも本当はこうなんだな」と確認することが有効である。

③ 学び方を学べる。

自分はなぜ変わったのかを自己評価することで、「～の活動をしたからかわった」「○○くんの意見を聞いたから」「～という説明を聞いたから」「～で調べたから」など、どのような学習方法が効果があるのか自ら気づくことができる。

6 一枚ポートフォリオの作成は授業の吟味である。

教師が一枚ポートフォリオを作成するためには、学習後にどのような力をつけるのか(学習目標)が明確になっている必要がある。学習前後の考えを書かせるための問題や質問はここで何を学ぶのかが明確になっていないとできない。そして、学習前の考えを変えるためにはどのような指導が必要であるのかを考えなくてはならない。一枚ポートフォリオを作成する中で、授業の構想ができるのである。

7 児童の資質能力を向上できる。

一枚ポートフォリオに児童の考えを書かせることで、「自己評価能力(メタ認知)を高める」「知識を定着させる」「学習内容を使って推論できる」「学習意欲を育てる」など資質や能力を伸ばすことができる。

8 説明責任が果たせる

一枚ポートフォリオを児童に返し、保護者がみることは、児童が何を学んだか、学習前と学習後にどのように変化したか、など学習の様子を保護者に知らせることになる。これは授業内容はやその成果の説明責任を果たしたといえる。